

～All for one, One for all.～

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 181 号 —

2015 年 4 月 25 日発行

もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。
この日は言葉をかの日につたえ、この夜は知識をかの夜につげる。
話すことなく、語ることなく、その声も聞えないのに、その響きは全地にあまねく、その言葉は世界のはてにまで及ぶ。

旧約聖書「詩篇」

第一九篇一～四節



春満開、笑顔も満開!!

会報五言

一、この世は誰が動かしているのか。勿論人間様だろう。そうかな？人間を背後で支配する、目に見えない方がいるはず。それを神とも言う。

一、あつという間に、梅も過ぎ去り、桜も三日見ぬ間に葉桜になった。当にあつという間である。

一、厳寒を経験した者は、春の優しい春の時を感謝する。これが人生の真実なる原理である。

一、幸福になる真理？そんなものはあるのか。あるのだ。今を最高の幸福といつも感じられる人。

一、今を喜んで生きる人。もし明日があれば、明日も感謝して生きられる人。これが最高の幸福な人だ。

今、共に生きるわれら

—聖書集会の岩の上に

社会福祉法人 東京光の家 評議員 岩島 清



『燈心』第四四九号の巻頭言に、田中理事長は、東京光の家の創立の基本精神である「信仰」の象徴ともいふべき「聖書集会」（水・金・日）を何よりも大切にして来られたことを語られておられます。そして、

「如何なることがあっても、暑かろうが寒かろうに関係なく、この集会をしつかり守り抜くために最善の努力をし、壇上に立たれる方々に最善の敬意を払うのがこれ又、信仰を大切に

する道だと、私は心得ている次第である。これがひいては、わが東京光の家が信仰を大切にす

る大きな証しと思うのである。」と記されています。この努力の継続が、東京光の家を不動の園とし、創立者が目標とされた「キリスト教の福音と教えに基づき、盲人たちの人格を高め、社会の尊厳を得る」ことを確かなものとして社会に示していることは明らかな事実です。

この大切な「聖書集会」に、二〇一四年一月から一年間、田中理事長のご依頼に応じ、奇数月の第二日曜日の聖書集会で、講話を担当させていただき

ました。私はこれまで、原子力放射能の公衆衛生など科学分野の研究・教育に携わって来た者で、聖書の研究者でも牧師でも

なく、まったくの平信徒です。にもかかわらず、講話担当をお引き受けしたのは、クリスチャンの家庭に育ち、聖書を読み、感謝と希望をもって日曜礼拝を守り続けている私に、その

幸いの泉である「聖書」そのものを、友に語れと主イエス様に呼び出された思いがしたからです。

講話では、「小聖書と呼ばれるべきだろう（ルター）」と言われている詩編を取り上げました。ある園生の「詩編一三六編が大好きです」との真摯な発言に加え、初代教会の信徒達が、キリストの死と復活は詩編八編の預言の成就である、と解釈したことに励まされ、「神と人の結びつき」を記した詩編にしました。

講話の表題をお示します。

第一回 神からの最もすばらしい贈物

—聖書と音楽

第二回 祝福の道

—みことばに導かれて

（詩編一編）

第三回 弱さの中にこそ

—救いは主のもとにある

（詩編三編）

第四回 創り主への讃美

—乳飲み子の口をもつて

砦を固められました

（詩編八編）

第五回 変えられた嘆き

—神がこれを行われた

（詩編二二編）

第六回 主はわたしの牧者

—みことばに導かれて

（詩編二三編）

二千年以上前の古い詩に溢れる神の恩恵、詩人の心からの発露—嘆きと讃美・感謝が、光の家の現実にも重ねられるのを感じながら、皆様と共に、讃美と感謝の時を持たせて頂きました。

主を囲み、今、共に生きるわれら光の家は、日本を支える隅の親しとされています。感謝。

平成二六年度 締めくくりの会

三月二四日（火）から二七日（金）の四日間にあわたり順番に、東京光の家の四つの施設が年度末行事である「締めくくりの会」を開催しました。

はじめの式典では、田中理事長による式辞、招待者のご挨拶の他、この一年頑張った利用者の表彰や成果発表、訓練修了の

報告等が行われ、その後は、美味しい昼食を食べながら、音楽や演劇等の企画で楽しい一時を過ごしました。

みのり多きこの一年を、出席者全員で感謝を持って振り返り、皆の心が結ばれてゆく、今年もすばらしい年度の納めの会となりました。



3/24 光の家栄光園「みのりの会」
永年勤続者表彰



3/25 光の家新生園「納め会」
演劇クラブによる創作ホームドラマ



3/26 光の家神愛園「感謝会」
美味しい食事に舌鼓



3/27 光の家就労ホーム「結の会」
若さあふれるダンス



秋元梅吉と信仰について
語る田中理事長

（光の家神愛園 支援課
主任 小坂 鑑）

は光の家はなかった。社会福祉の精神と神様を信じていれば、困難なことも実現可能になることを学びました。

「秋元梅吉の信仰」
（第四〇回 創立者
秋元梅吉追悼集会）

二月六日に四〇回目の追悼集会が行われました。今年は昭和三八年の六月の集会で話された「祈りに対する神の応答」という講話のテープを聞き、そのあと田中理事長が「秋元梅吉の信仰と東京光の家」という題でお話しされました。秋元先生の祈りによって与えられた事業体であり、秋元先生がいなければ光の家はなかった。社会福祉の精神と神様を信じていれば、困難なことも実現可能になることを学びました。

光の家障害者グループホームがオープン!!

いよいよ光の家障害者グループホームが四月から開設されました。

場所は東京光の家から歩いて五〜六分の「光の家就労ホーム」の隣接地にあります。

このグループホームでは共同生活援助七名、短期入所一名の利用が可能となりました。

この「光の家障害者グループホーム」は田中理事長がこれからの時代を見据えた事業として望んでいたものであり、光の家にとっても今後の方向性を示唆するものであります。

つまり、大型の入所施設が国の政策によりなかなか作れない中、利用者の中に地域移行や地域生活を希望している人達がいるため、入所施設の機能をしつかり維持しながら小規模のグループホームを積極的に推進し

ていくということです。

実際、グループホームに移った利用者は今まで新生園や栄光園の入所者がほとんどであり、以前から地域移行や地域生活を希望していた人達でした。

今回、グループホームに移って生活している利用者に聞いたところ皆さん、そろって満足している様子でした。

毎日の通勤歩行訓練も行い、食事でも光の家の配食サービスにより今まで通りの光の家の食事を食べることができ、また、健康管理も医務体制が整い、元気に栄光園の作業に通っている姿を見て本当に良かったと思います。

今後も東京光の家は入所施設としての機能を十分発揮しながら地域移行や地域生活のニーズも取り込んでいきたいと思っています。

います。

「光の家障害者グループホーム」が利用者にとって安心して地域で自立した生活が送れることと同時にこれからも地域福祉に貢献し、成長していく姿を是非、御期待下さい。

光の家障害者グループホーム全景



テラス





ダイニング



リビング



キッチン



浴室



エントランス



居室

新任のご挨拶



光の家障害者グループホーム
ホーム長 野間 匡
(入職 6年・40歳)

この度は、光の家グループホームのホーム長にご指名頂き身に余る光栄でございます。それと同時に私で務まるのかという多くの不安でいっぱいです。

田中理事長よりご指名を受けた時は『私で良いのか?』という思いがありました。が、任せるという事は上手にやるだろうという前提に、田中理事長の強い期待も込められていると感じ、微々たる私の力でも、誠心誠意その期待に応えようと決意いたしました。

今後も歴史ある光の家を守る一員としての自覚を胸に、職務に励みますので、皆様のご指導、ご支援の程をよろしくお願いいたします。



世界三大ピアノ、ベヒシュタインを所有する「もみじホール城山」で、三月八日(日)光バンドの演奏会を行いました。福祉祭りや、学校での演奏会でお世話になっていたこともあり、バンドを知る方々や近隣に住む方の温かな声援に包まれた演奏会となりました。



NPO 法人 城山めいぶる主催による
相模原市でのコンサート

地域の方に
点字教室を開催

地域貢献活動室とは、地域の方たちに、光の家の福祉事業や視覚障害者に対する理解を広げてもらうことなどを目的として、実際に光の家に來ていただくような企画をしたり、地域の行事に参加したりする活動をしています。更に昨年には点字教室を企画して開催しています。

点字教室は今年も近隣の小学生を中心に一八名の参加者があり、中にはホームページで開催を知った神奈川県から一般の方の参加もありました。



なんの味か点字で教えて

みなさん熱心に点字の読み書きの練習に取り組んでいました。特に食品の袋や箱にシールで味や中身を点字で書くという時間が非常に盛り上がり、たくさん点字を書いてたくさんシールを貼っている方も見られました。点字を書くことを通して視覚障害者に役に立つ実感が、みなさんは嬉しかったということが後からの感想で聞かれました。

このようなことで少しでも地域の方たちに役立つような活動を今後も継続していきます。
(地域貢献活動室長 山本 誠太郎)



点字いっぱい書けたかな

平成二七年度

新任職員紹介

四月から東京光の家に勤務する五名の新任職員をご紹介します。どうぞよろしくお願い致します。

「二日も早く、皆様の信頼を得られるよう頑張ります！」

光の家神愛園

生活係



大須賀 愛

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院卒

光の家神愛園

生活係



小田 薫

光の家神愛園非常勤

光の家神愛園

生活係



塩川 遼

明治大学卒

光の家栄光園

就労一係



大野 恵里歌

明治学院大学卒

総務部総務課

庶務係



白井 桜子

国立音楽大学卒

寄付者名簿

平成二六年一月一日〜平成二七年三月三十一日

公益財団法人日本財団 会長
笹川 陽平様

送迎用普通車 一台
車いす対応軽自動車 一台

公益信託 西村良枝記念
知的障害者福祉基金様

型抜きカッティング
システム 一式

東京善意銀行様

ワイヤレスマイク
セット 一式

船橋 敬様

サツマイモ 五kg
りんご 九kg

井川 幸雄様

りんご 四七kg
みかん 二七kg

河村 正様

米 六〇kg
うるち米 二八kg

折茂 冬貴様

美津江様 もち米 二七kg
大根 一〇六kg
白菜 四〇kg
長ねぎ 三二kg

石井 みち子様

米 三〇kg
柿 一〇kg

中西 登三男様

ティッシュペーパー 六〇箱

阿久津 隆様

りんご 一五kg

常盤 敏時様

りんご 一〇kg

鈴木 利明様

みかん 一八kg

七瀬 隆幸様

梨 二四kg
りんご 一五kg

松田 功様

みかん 一〇kg
七ロリ 二八kg

宮田 容子様

米 二八kg

米倉 清治様

りんご 二二kg

佐々木 加枝子様

だしの素 五〇〇g
三kg

城山鶏園 加藤孝文様 卵 一五kg
錦戸部屋 錦戸眞幸様 りんご 二kg

波辺 祥子様 米 一四〇kg

亀山 潔様 じゃがいも 一〇kg
たまねぎ 九kg
かぼちゃ 五kg

旭が丘商工連合会 会長 村上 義輝様 りんご 二kg

大谷 徳義様 みかん 三kg

宗像 正様 りんご 五kg

山崎 郡治様 みかん 二〇kg

安積 義治様 漬物 二kg

救護施設泉の園 施設長 小谷 彰也様 乾燥したけ 五〇g
きゅうり 粕漬け 二五〇g
はりはり漬け 六〇〇g

坂本 昭一様 玄米 三〇kg

三須 栄一様 小松菜 一〇kg

渡邊 幹男様 キウイフルーツ 五三kg

ミニツワークス株式会社様 ボア生地 九kg

小園江 康様 干しいも 一〇kg

若林 裕二様 点字絵本 一冊

坂本 武様 いよかん 一八kg

岩井 正義様 人参 二kg
純子様 韓国のも 五七六g
大越 千明様

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

入所式



平成二七年度が始まり、各施設で新年度の始まりを告げる行事が行われました。

四月一日には光の家就労ホームで、四月三日には光の家新生園で、それぞれ新たな利用者を迎える式典が行われました。

就労ホームでは、二名の利用者を迎えました。特別支援学校を卒業したばかりの元気な女性です。入所式では緊張した面持

ちでしたが、顔なじみの先輩方もおり、元気な挨拶をすることができました。

光の家新生園では、男性一名、女性二名の新しい利用者を迎えることができました。自治会会長からの温かい歓迎の言葉と、新生園光バンドの力強い演奏で、盛大に迎えられました。一日も早く光の家の生活に慣れ、充実した生活を送れるように願っております。

(光の家新生園 訓練課

主任 草間 樹)



光の家就労ホーム入所式



光の家新生園入所式

第八回 手さぐりの作品展

去る二月一九日から二四日まで、日野市立とよだ市民ギャラリーを会場に、第一八回手さぐりの作品展を開催させていただきました。昨年に引き続き、「わたしたちのくらしパートⅡ」と題し、一年間のさまざまな活動を作品にしました。今回は天候にも恵まれ、多くの方々に見て頂くことができました。ありがとうございました。

(光の家新生園 訓練課

福田 清香)



みんなで作った超大作!!

法人役員

平成六年から長年にわたり、尽力頂いた石川左門評議員が平成二七年三月三十一をもって退任され、新たに平成二七年四月一日から地域代表として梅田俊幸評議員が就任されました。

◇理事長・評議員

田中 亮治

◇常務理事・評議員

石渡 健太郎

◇理事・評議員

相澤 忠一

菅野 秀郎

杉山 吉昭

◇監事

白井 富士夫

◇顧問

杉山 閑男

◇評議員

安藤 曜子

梅田 俊幸

軽部 義和

佐川 勝宣

横引 公一

岩島 清
加藤 保武
川辺 和政
山下 勉
(五十音順)

発

行 千一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一七七一七

社会福祉法人 東京 光の家

電話 〇四二(五八)二三四〇

FAX 〇四二(五八)九五六八

メール info@hikarinoie.org